



産学連携体制の維持・発展について

平成27年6月17日

内閣府

SIP革新的燃焼技術

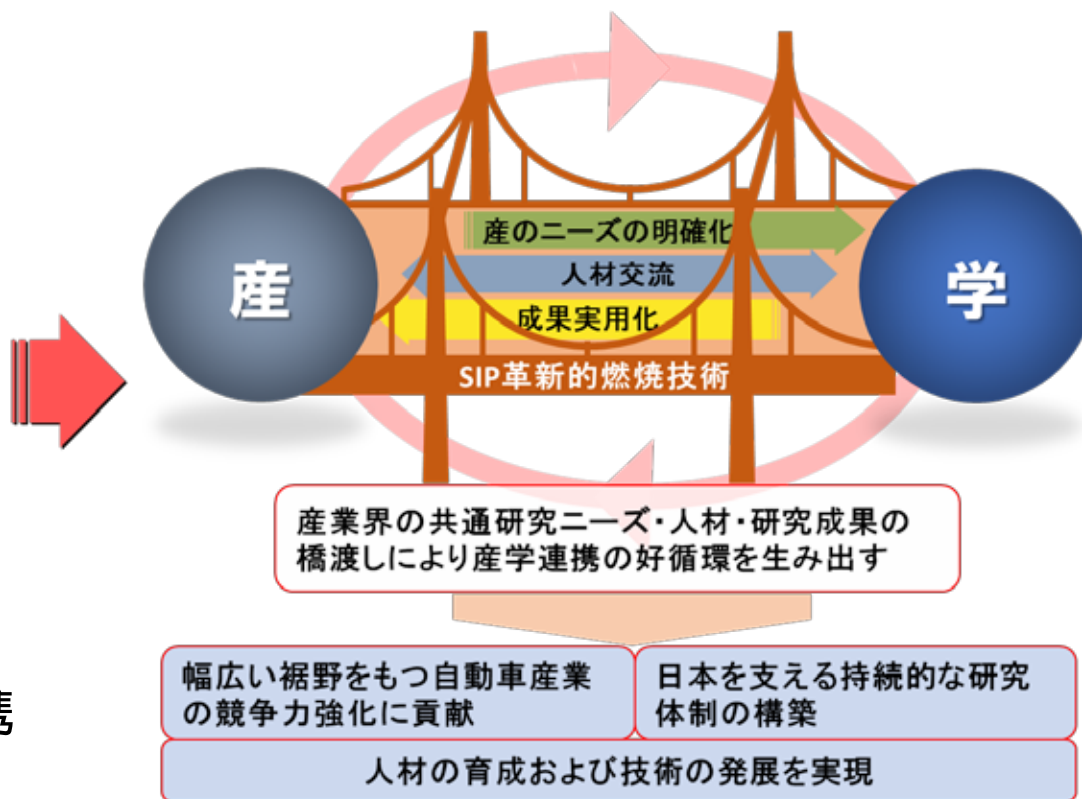
推進委員会事務局

本日ご議論頂きたい事項

- 1 SIPの活動を通じて、産学連携体制を構築できつつある
- 1 構築した産学連携体制をSIP終了後も維持・発展させるべく、SIP終了時に目指す産学連携体制の姿とそれに向けた課題を事務局にて整理した
- 1 目指す姿と課題について、補足や新たに追加すべき事項等についてご意見を頂きたい



従来: 1体1での小規模連携




SIPで感じた産学連携体制の手応え

大学側の手応え

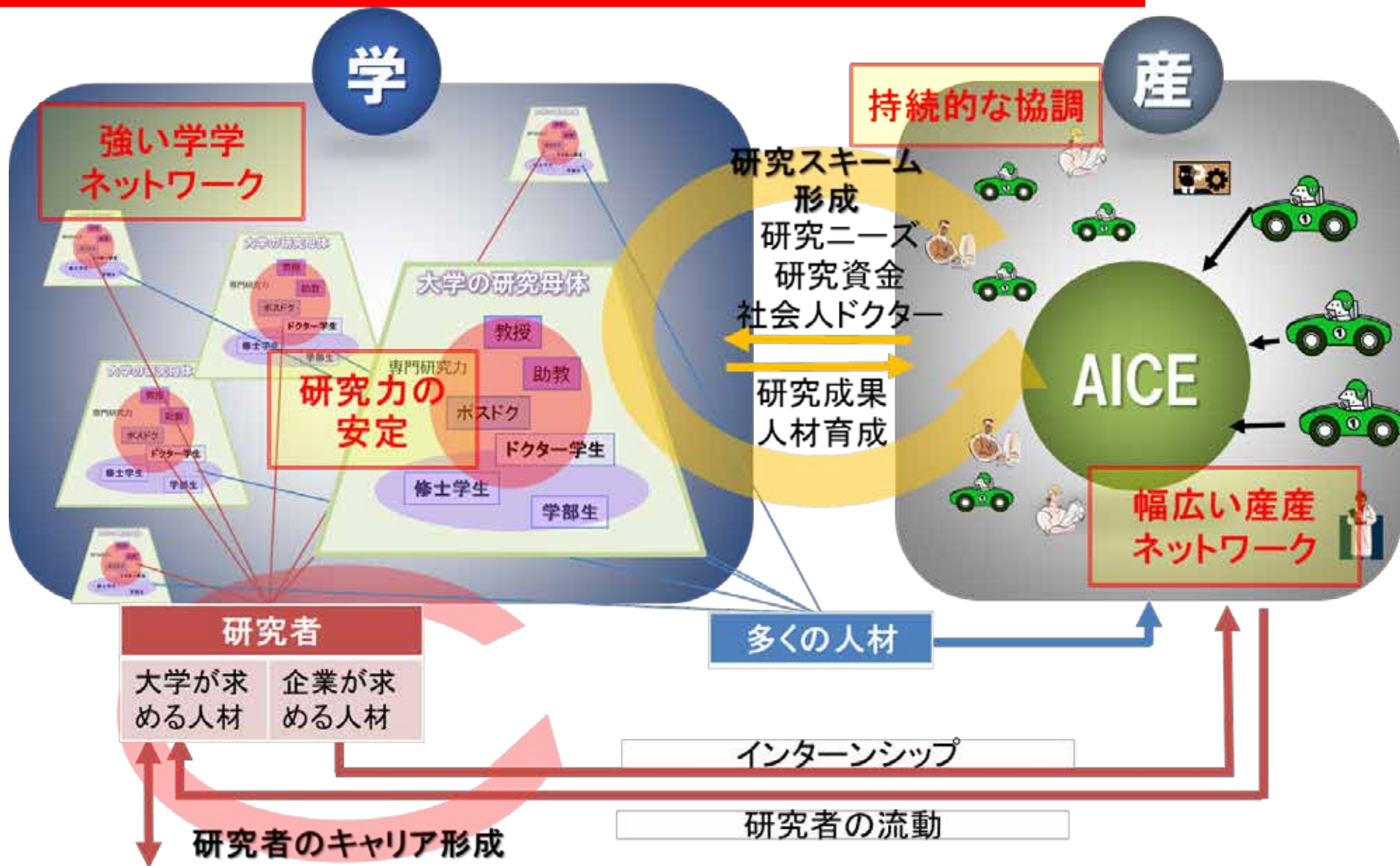
- 産側から可能な限りの積極的な情報提供を受けており、産-学の議論が活性化した
- 産から学への、研究に対する思い・期待・覚悟を感じ、強い気持ちで進めていきたい
- 企業の研究室見学を通じて、安全面への配慮などの改善点を痛感し、大学でも実践できるところは取り入れたい
- 学-学をつながり継続のため、今後もコミュニティ形成に向けて能動的に行動したい
- 産-学がもっと近づき易い環境を形成することで、日本の研究レベルは格段に向上する

産業界側の手応え

- 産-産の連携により、共通研究ニーズを大学側に示すことができた
- 産学連携が進んでいる欧州は、車両技術等のテクノロジー寄りの研究が主に発展しているのに対し、我が国はサイエンス寄りの研究を積み上げた研究が可能であり、産学の力を結集すれば将来の国際競争力になる

 産学双方が、産学連携体制の手応えを得ている

SIP終了時に目指す産学連携体制の姿



目指す産学連携体制の姿に向けた課題

- 産業界からの研究ニーズの発信に必須となる産業界の持続的な協調について
 - AICEを中心とした産産連携を継続し、新たな研究テーマを設定

- 産産連携をより強固なものとする幅広い産産ネットワークについて
 - 幅広い企業ニーズの収集、研究資金の確保、成果活用、雇用と交流の活性化のために、AICEの組合員・賛助会員を拡大

- 学の強みを活かした大学連携研究を生み出す強い学学ネットワークについて
 - 共用研究設備を活用したチーム研究体制のノウハウの蓄積
 - チーム共同による研究計画の策定・実施

- 研究力を安定して保つために必要な研究人材の育成、雇用・確保について
 - 社会人ドクター、研究員インターンシップなど、産学双方を理解する人材の育成
 - 成果評価・社会的貢献度アピール、キャリア形成など、内燃機関研究の魅力向上